

子どもを見ることから始まる 美術教育への回帰

会期：2015年3月28日（土），29日（日）

会場：上越教育大学

主催：美術科教育学会

【上越大会概要】

■主催：美術科教育学会

■会期：2015年3月28日（土）、29日（日）

■会場：上越教育大学（上越市山屋敷町1番地）

■大会テーマ

子どもを見ることからはじまる美術教育への回帰

■大会日程

3月27日（金）理事会等

13:30～15:30 学会誌編集委員会

15:40～18:00 理事会（理事、監事）

3月28日（土）大会第1日

9:00～9:30 受付

9:30～11:45 研究発表Ⅰ

12:25～13:20 開会行事・総会（於：講301）

13:20～15:00 研究発表Ⅱ

15:10～18:00 シンポジウム「子どもを見ることからはじまる美術教育への回帰」
（於：講301）

18:10～20:40 懇親会（於：大学会館）

3月29日（日）大会第2日

9:30～11:50 研究発表Ⅲ

13:00～14:00 研究部会交流会Ⅰ

14:10～15:10 研究部会交流会Ⅱ

■シンポジウム「子どもを見ることからはじまる美術教育への回帰」

新聞やテレビでは、子どもが被害者になり、加害者になる様々なニュースに出会います。どうしたら人の視点や気持ちに立つことができるのか。また、どうしたら自分が成り立ち、同時に、他者と世界を共感的に生きることが成り立つのか。わたしたちの表現や言葉が生まれる必然として、他の〈わたし〉としての他者がいます。この他者との働きかけをとおして、人としての〈わたし〉の声と行為が生まれ、他者の声や行為とつながることで成り立っています。

発達心理学者の浜田寿美男氏は「子どもは身体をもってこの世に生まれ、別の身体をもった他者との間で、見る・見られる、手を握る・握られる、抱く・抱かれる、声をかける・かけられる……と、さまざまな回路を介して能動-受動のやりとりを交わす。〈わたし〉という心的構図が生み出されていくのは、この条件のもとでのことである。（中略）こうして生まれる〈わたし〉は、必然的な契機として他者の〈わたし〉を含み込んでいる。個別的でありながら、同時に共同的でもあるというこの条件を、子どもはその自然として、最初からその身体に組み込んでいる」とします。そして、「目に見え、声に聞こえ、手に触れることができる他者の身体に囲まれて、そこからの能動の発散を我が身に受動する。その受動の嵐のなかで、そこから逆に照らし出されるようにして私の〈わたし〉は生まれる」とし、「他者の〈わたし〉が成り立つことによって、はじめて私の〈わたし〉が成り立つという順路が、（中略）少なくとも必須の一側面としてある」。（『子ども学序説』岩波書店、2009、14・38頁）と述べています。

子どもたちの造形的な表現や鑑賞の過程においても、他者や身の回りの世界と「ともに生きるかたち」を、どのようにして新たな生を成り立たせていくのかという問いを離れて、生きて働く行為やまなざしの成立は困難といえます。その過程に「私の〈わたし〉が成り立つ順路」が示唆を与えています。子どもを見ることからはじまる「ともに生きるかたち」の創造としての美術教育について、皆様のご意見を交えて議論を深めて参ります。

シンポジスト

・浜田 寿美男氏（奈良女子大学名誉教授、立命館大学特別招聘教授）

京都大学大学院文学研究科博士課程。花園大学教授、奈良女子大学教授を経て現職。著書に『私のなかの他者』（金子書房、1998年）、『「私」とは何か』（講談社、1999年）、『自白の研究』（北大路書房、2005年）、『子ども学序説』（岩波書店、2009年）、『障害と子どもたちの生きるかたち』（岩波書店、2009年）、他多数。

・鈴木 陽子氏（目黒区立五本木小学校）

女子美術大学芸術学部。現在、東京都目黒区立五本木小学校教諭。中学校美術を含め教師歴37年。共著『わくわく図工授業』（明治図書、2011年）、国立教育政策研究所学習指導要領改訂協力者、東京都図画工作研究会、NHK「キミなら何をつくる？」番組制作協力、他多数。

・横内 克之氏（新宿区立落合第六小学校）

東京学芸大学教育学部。上越教育大学大学院。東京都公立小学校教員として36年、新宿区立落合第六小学校をこの3月で退職。文部科学省研究指定校事業企画委員。同学習指導要領実施状況調査問題作成・分析委員。NHK「ダビンの図工室」（2005）。『こども主義宣言』（三見書房、2007年）。『学校をかざろう！第3巻』（小峰書店、2009年）他多数。

子どもたちと図工をこよなく愛する熟達した図工の先生であるお二人から、子どもたちの生きる行為や表現にひたむきに出会いながら、図工の時間とご自身を深めてこられたこれまでの出来事や画像をご紹介いただき、子どもを見ることからはじまる美術教育へ回帰することの意味と可能性について、深めて参りたく存じます。

・司会：松本 健義（上越教育大学）

第1日
3月28日(土)

9:00~9:30 受付

研究発表 I

	A会場 (講201)	B会場 (講302)	C会場 (人105)	D会場 (人106)	E会場 (人107)	F会場 (人205)	G会場 (人206)	H会場 (人207)
9:30 ~ 10:00	1 コラボレーション造形実践の課題と可能性 -未知なる二者で奏でる「デュエット」の取り組みから-	生きている力を育む色彩造形活動の視点	[絵画・以降] の時代における絵画題材の開発 -モンドリアン作品の題材化を焦点として-	造形活動における学びの可能性について	図画工作の授業における共感性の育成 <small>※発表者各道のため研究発表は行われません。 本学会へのご貢献に深く感謝と敬意を申し上げます。 ご査念を願ひながらご発表をお願いします。</small>	フィンランドの美術から考える我が国のものづくり教育の課題	造形教育における「つくること」-「発達」と「生成」-	スペイン・マドリッドにおける鑑賞プロジェクト ~ソロヤの作品を使った幼児対象の実践を通して~
10:05 ~ 10:35	2 アートワークショップを通して「出会い」から「理解」へ -保育園児と特別支援学校生徒の交流事例から-	中学校美術科における題材設定に関する一考察 -自らの鑑賞授業の実践を通して-	[絵画・以降] の時代におけるモンドリアンの図画工作科での展開 -面・線とその色彩がもたらすもの-	第36回美術科教育学会 奈良大会プレ学会(2013.12.21) 報告 -美術教育における「遊び」概念と指導-	図画工作・美術への「苦手意識」の研究 II -苦手意識の現状とその解消に向けて-	次世代のものづくり教育構想におけるフィンランドのものづくり教育の意義 -ものづくりの「責任」の問題を中心として-	エアクロッキー -集中力と想像力を高める-	静物画の源流的様式の読解的鑑賞 -「プレ静物画」を学ぶ可能性の検討-
10:40 ~ 11:10	3 「わたし」が解き放たれる美術表現 -障害のある人の表現活動に関する実践的研究-	子どもの集団的な造形活動における技能の伝搬過程に関する研究(3) -授業場面での協働的活動における相互作用の分析-	[絵画・以降] の時代における抽象絵画の題材化 -モンドリアンの線を主題として-	長野の美術教育と石井鶴三	地域連携からみる中学校美術教育の歴史の変遷 -学習指導要領を通しての考察-	フィンランドの美術・工芸系教育と教育実習について	多校種にわたるデカルコマニー実践の試み(2) -小学生と中学生の描画行為の比較-	展示会から見るアール・ブリュットへの美術上の意識の変化
11:15 ~ 11:45	4 芸術におけるコミュニケーションと「他者」	児童のアート空間把握 -中学年の造形遊びを通して-	[絵画・以降] の時代におけるデジタル絵画の高校美術題材化 -モンドリアンとドゥースブルフの作品に基づく高等学校美術科での展開-	大田耕士の教育版画観に関する研究・紙はながの誕生とその変遷	国際バカロレア中等課程プログラムの改訂について(2)	「アーキビスト」考 -フィンランドの「アート・アンド・クラフツ」教育を視て-	図画工作科の題材について -学生の意識から見る教科の課題-	美術鑑賞を通してこそ可能な学びとは? -美術館の教育普及担当が考える美術の意義-

11:45~12:25 昼休み

12:25~13:20 開会行事・総会 (講301)

研究発表 II

	A会場 (講201)	B会場 (講302)	C会場 (人105)	D会場 (人106)	E会場 (人107)	F会場 (人205)	G会場 (人206)	H会場 (人207)
13:20 ~ 13:50	1 「子ども参加型評価活動」の可能性 -評価材の選択と提出を促す事例から-	子どもの絵における空間表現の発達と指導(2) -食卓の奥はなぜ長い?-	美術教育におけるCLIL的アプローチによる指導法の研究 -熊本市立一新小学校での実践から-	子どもの考える力、表現する力、自己肯定感を育むための鑑賞活動の試み	アジアにおける美術教育の系譜 -西洋美術の受容と独自性-	図画工作科教育法におけるリテラシーについて -子どもたちの姿が見える授業づくり-	21世紀中期の「学校教育課題」と美術科教科書に関する考察	「子どものデザイン」からみえてくるもの -その考え方と実践-
13:55 ~ 14:25	2 「子どもの「見る」を探って」 -低学年における図工実践事例の考察-	オール・ヒストリーによる戦後の創造主義的造形教育の検証と考察	表現を体験する学びから表現を探した学び(1) 教員養成課程「図画工作」の授業改善の理論的背景とDVD「図工美術の実技ベーシックス」	ムンク『叫び』における比較鑑賞論	美術科教育の政策と実践における「自由」概念の検討	教科学習に対する若手教員の授業力向上に資する基礎的研究 -初任1年目の段階における実技教科指導の実践-	美術科・図画工作科における3DCG表現の技術指導と協同学習	Digital Contents を活用した鑑賞教育の構想
14:30 ~ 15:00	3 「子どもの絵を見ること」について	造形遊びの興亡と「美育文化」	表現を体験する学びから表現を探した学び(2) 教員養成課程「図画工作」におけるDVD「図画美術の実技ベーシックス」活用の成果と課題	鑑賞教育の基礎的考察	欧州委員会による芸術教育の動向調査について	教員養成の高度専門化に向けた美術教育カリキュラム(2)	“映像メディアによる表現”の力 ~震災後 PTSD から PTG へ~	創造的思考力を育成する教材の開発

15:10~18:00 シンポジウム「子どもを見ることからはじまる美術教育への回帰」 (講301)

18:10~20:40 懇親会 (大学会館)

発表者の方へ

1. まれにノートパソコンとプロジェクタを正しく接続しても、プロジェクタ側でノートパソコンからの信号を検知しない(画像が投影されない)場合があります。このようトラブルを未然に防ぐため、休憩時間や会場が使用されていない時間帯等に、該当の会場にて接続テストを実施していただくことをお勧めいたします。
※ お手持ちのパソコンの解像度・周波数等が高く設定されていることが上記トラブルの原因となる可能性があります。この場合は、「画面のリフレッシュレート」を低く設定することで解決する場合があります。
※ 音声出力には対応していません。
2. 研究発表の進行は、次のように行います(時間厳守をお願いします)。
一鈴：15分経過、二鈴：20分経過、三鈴：30分経過(質疑応答終了)

※ プログラムの内容については変更する場合があります。お気づきの点は 37artedu@juen.ac.jp へ件名「研究発表プログラム」でお知らせ下さい。

第2日
3月29日(日)

研究発表Ⅲ

	A会場(講201)	B会場(講302)	C会場(人105)	D会場(人106)	E会場(人107)	F会場(人205)	G会場(人206)	H会場(人207)
9:30 ~ 10:00	1 美術科授業における導入方法の検討 山本 果林 (広島大学大学院) 三根 和浪 (広島大学)	美術科における言語活動の充実に関する一考察 一わかり合いの中で、創造活動に自信がもてる生徒の育成をめざして 牛山 晴登 (刈谷市立刈谷南中学校)	〈世界〉にかかわる〈私〉の生成過程 一造形遊びの記述分析による一考察一 横田 翼 (上越教育大学大学院) 松本 健義 (上越教育大学)	CG制作における模倣と創造 浅野 恵治 (東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所)	小学校の朝活動における描画(スケッチ)に関する研究Ⅰ 八桁 健 (東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所), 萩生田 伸子 (埼玉大学大学院), 荒田 真弥 (埼玉大学大学院), 有原 穂波 (埼玉大学大学院)	スペインと日本の初等美術教育の比較② 一工作指導に関わる題材の分析を中心として一 網谷 夏実 (富山大学大学院)	重度・重複障害児の造形活動における授業改善の方策 池田 史志 (広島大学)	なぜ青年期に対する美術館のアプローチが無いのか? 一美術が「疾風怒濤の時代」に果たす役割からの考察一 田中 千秋 (北海道教育大学大学院)
10:05 ~ 10:35	2 展示スタイルを考えての新しい日本画制作 一展示を見通した制作のプロセス一 松原 秀伸 (神奈川県立弥栄高等学校)	図画工作科における英語活動Ⅱ 樋口 和美 (福岡教育大学附属福岡中学校)	粘土の造形活動における幼児の見せる発話Ⅰ 一発話の状況とその機能に着目して一 芦田 風馬 (奈良教育大学非常勤講師) 竹内 晋平 (奈良教育大学)	映画の製作を授業化するために 長谷 海平 (一橋大学)	小学校の朝活動における描画(スケッチ)に関する研究Ⅱ 萩生田 伸子 (埼玉大学大学院), 八桁 健 (東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所), 荒田 真弥 (埼玉大学大学院), 有原 穂波 (埼玉大学大学院)	中等教育における工作教育の歴史的検討として 一北欧における徒弟教育の導入の実態比較一 齊藤 暁子 (名古屋大学大学院)	造形活動における知的障害児の言語・非言語コミュニケーションの事例分析 森 芸恵 (筑波大学附属大塚特別支援学校, 筑波大学大学院人間総合科学研究科)	題材ルーブリックの協同的な開発過程に関する質的研究 一中学生の美術鑑賞教育のパフォーマンス評価の試みを例に一 佐藤 絵里子 (筑波大学大学院)
10:40 ~ 11:10	3 美術教育はどうしたらいいのか?その2 協同と表現のワークショップの視点から 茂木 一司 (群馬大学)	放課後子ども教育事業へのアート活動の導入に向けた枠組みの構築 一茨城県水戸市のプログラム策定のプロセスの事例として一 市川 寛也 (筑波大学)	乳幼児からの造形についての一考察 丁子 かおる (和歌山大学)	映画と芸術教育の接近 一鑑賞授業の実践を通して一 田中 幸子 (東京都立総合芸術高等学校)	ドローイングの判別に関する研究Ⅰ 荒田 真弥 (埼玉大学大学院), 萩生田 伸子 (埼玉大学大学院), 八桁 健 (東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所), 有原 穂波 (埼玉大学大学院)	イスラム世界の初等教育課程における美術教育の実態 一モルディブ共和国での現地調査から一 箕輪 佳奈恵 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)	インクルーシブ教育の考えを基にした図工美術教育における映像メディア表現の実践的研究 鈴木 紗代 (館林市立第十小学校)	所蔵作品を用いた米国・豪州の鑑賞教育事情 一コレクションの効果的展開をめざす教育普及活動の実態一 一條 彰子 (東京国立近代美術館) 寺島 洋子 (国立西洋美術館)
11:15 ~ 11:45	4 H. リードによるモダニズムは21世紀のデザイン教育論の礎石となり得るか? 山本 朝彦 (鳴門教育大学) 宮脇 理 (インディペンデント・スカラー, 元・筑波大学)	造形ワークショップにおける表現の広がりの可能性 一協同制作における非言語場面に着目して 佐竹 誠 (和歌山大学大学院)	自己効力感からみた造形活動の指導のあり様に関する一考察 三鈺 史織 (上越教育大学大学院)	日本美術の教養形成媒体の考察 一他教科で学ばれつつある美術一 有田 洋子 (島根大学)	思春期における描画の危機の研究 一その原因と指導のあり方一 平星 允彬 (横浜国立大学大学院)	中華人民共和国における美術教員養成課程 徐 英杰 (筑波大学大学院)	自閉症児支援の「欠陥モデル」から「成長モデル」への転換 一多重知能理論による描画とシンボル・システムからの検討一 細野 泰久 (岩手県立宮古恵風支援学校)	国立美術館・博物館の所蔵作品を用いた鑑賞教育の展開 「鑑賞教育キーワードmap」 一條 彰子 (東京国立近代美術館) 奥村 高明 (聖徳大学)

11:45~13:00 昼休み

研究部会
交流会

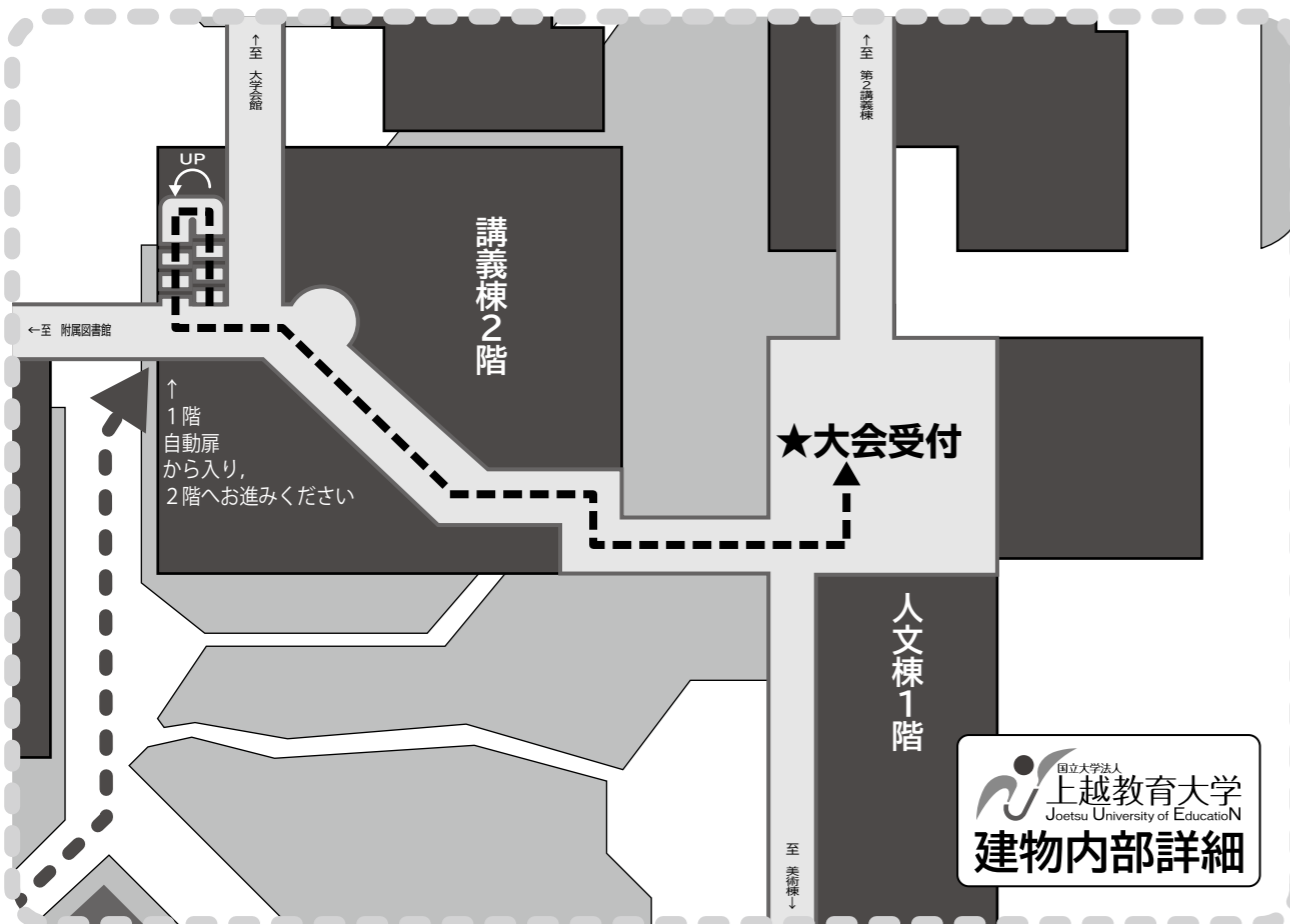
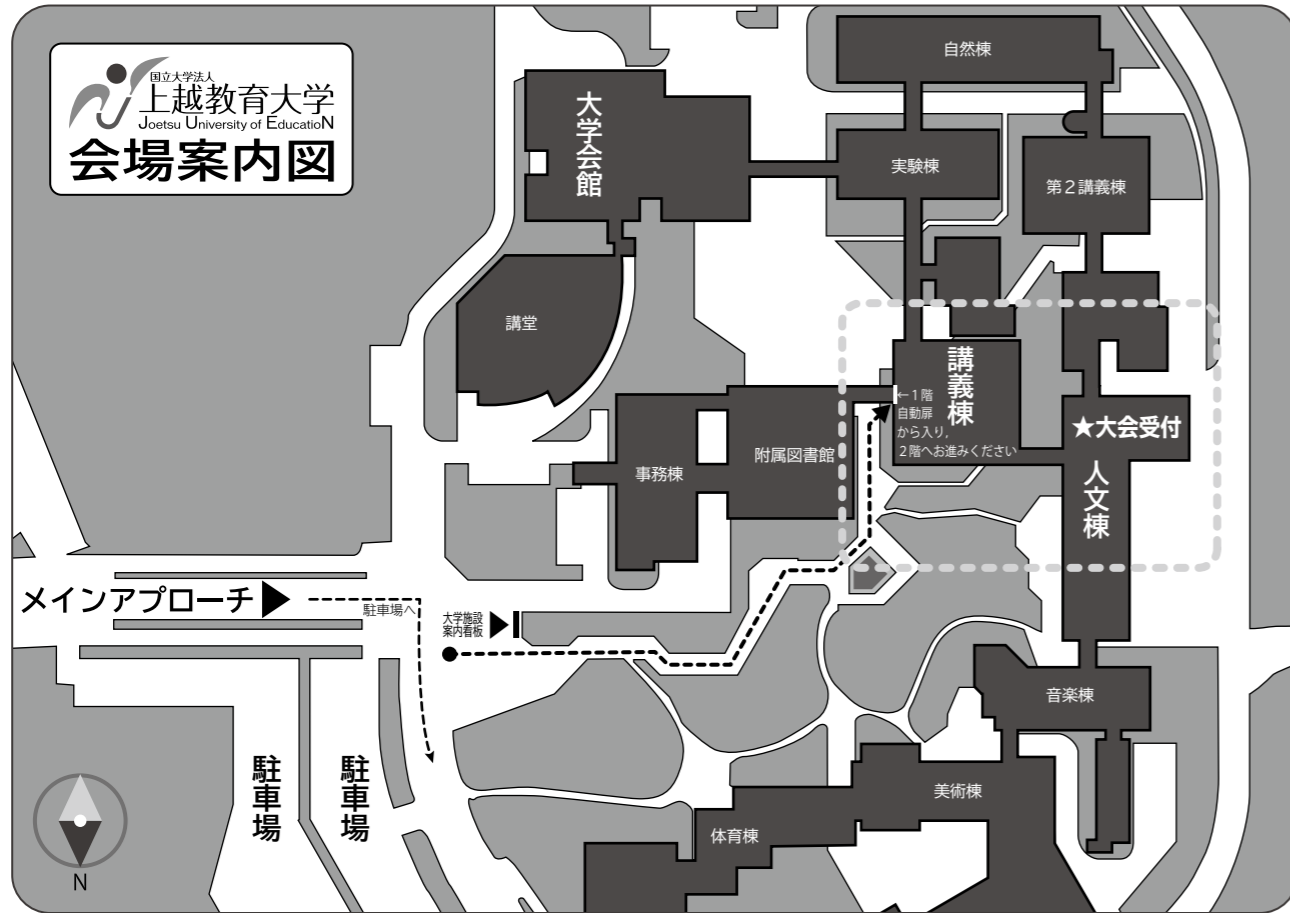
	A会場(講201)	B会場(講302)	C会場(人105)	D会場(人106)	E会場(人107)	F会場(人205)	G会場(人206)
13:00 ~ 14:00	I 美術教育史研究部会 第二次大戦後美術教育の諸相 金子 一夫 (茨城大学)	工作・工芸領域部会 3Dプリンターが登場する時代の「ものづくり教育」 佐藤 昌彦 (北海道教育大学)	インクルーシブ美術教育研究部会 ワークショップ「インクルーシブ社会/教育に美術教育はどのように関係/貢献できるのか」 一インクルーシブな活動・実践・思考の紹介と共有一 茂木 一司 (群馬大学)	乳・幼児造形研究部会 乳・幼児の基礎造形に関するアプローチ 一乳・幼児造形宣言作成に向けて一 丁子 かおる (和歌山大学)			
14:10 ~ 15:10	II				授業研究部会 図画工作・美術科の授業研究の発生と成果の還元 大泉 義一 (横浜国立大学)	現代<A/E>部会 拡張された<美術/教育>の基本構造と可能性を考える 一21世紀の美術教育のフレームを明らかにするために一 谷口幹也 (九州女子大学)	高校美術研究部会 意欲を高め続ける美術の授業と評価の研究 一中学1年・高校1年の実践から一 清田 哲男 (岡山大学)

発表者の方へ

- まれにノートパソコンとプロジェクタを正しく接続しても、プロジェクタ側でノートパソコンからの信号を検知しない(画像が投影されない)場合があります。このようトラブルを未然に防ぐため、休憩時間や会場が使用されていない時間帯等に、該当の会場にて接続テストを実施していただくことをお勧めいたします。
- ※ お手持ちのパソコンの解像度・周波数等が高く設定されていることが上記トラブルの原因となる可能性があります。この場合は、「画面のリフレッシュレート」を低く設定することで解決する場合があります。
- ※ 音声出力には対応していません。
2. 研究発表の進行は、次のように行います(時間厳守をお願いします)。
一鈴：15分経過、二鈴：20分経過、三鈴：30分経過(質疑応答終了)

※ プログラムの内容については変更する場合があります。お気づきの点は 37artedu@juen.ac.jp へ件名「研究発表プログラム」でお知らせ下さい。

■会場案内



第 37 回美術科教育学会 上越大会運営委員会

大会運営事務局

実行委員長 西村 俊夫

松本 健義（研究発表担当）

阿部 靖子（参加費担当）

高石 次郎

五十嵐 史帆

研究発表概要集

第37回美術科教育学会上越大会

子どもを見ることからはじまる
美術教育への回帰

編集・発行

第 37 回美術科教育学会上越大会

実行委員長 西村俊夫

2015年3月28日

表紙デザイン・編集：安部 泰（上越教育大学芸術系コース「美術」）